

# 名古屋ものづくりワールド2020

## “第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展” 参加報告

2020年9月9日（水）に、中部国際空港に隣接する“愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）”で開催された“第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展”に参加し、国際航空宇宙展（JA）の担当として展示会の状況を調査するとともに、感染症対策など次回の国際航空宇宙展（JA）開催に向け参考とする機会を得たので報告する。

### 1. “第4回 名古屋 航空・宇宙機器開発展”について

名称：第4回 名古屋 航空・宇宙機器開発展

会期：2020年9月9日（水）～11日（金）

会場：愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）

本展示会は、“名古屋ものづくりワールド2020”の一部として、以下の6つの展示会と同時に開催された。

第5回 名古屋 設計・製造ソリューション展

第5回 名古屋 機械要素技術展

第4回 名古屋 工場設備・備品展

第2回 名古屋 次世代3Dプリンタ展

第1回 名古屋 ものづくりAI/IoT展

第1回 名古屋 計測・検査・センサ展

本展示会は、春に名古屋市の“ポートメッセ名古屋”で開催が予定されていたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開催が9月に延期され、会場も“愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）”に変更され開催された。

この展示会は、ものづくりに焦点を当てた展示会となっており、多くのものづくり関連の展示会の一部として航空・宇宙機器開発展として開催、民間企業であるリード・エグジビション・ジャパン社により主催・運営されている。



名古屋ものづくりワールド 各展示会



愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）

## 2. 展示会について

今回の“名古屋ものづくりワールド2020”の展示会場は、中部国際空港（セントレア）に隣接し2019年8月末に開場した“愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）”の展示ホールB～D（各展示ホール10,000㎡、合計30,000㎡）を使用して展示と講演が開催され、これに加え展示ホールE（10,000㎡）の一部を講演会場として開催された。

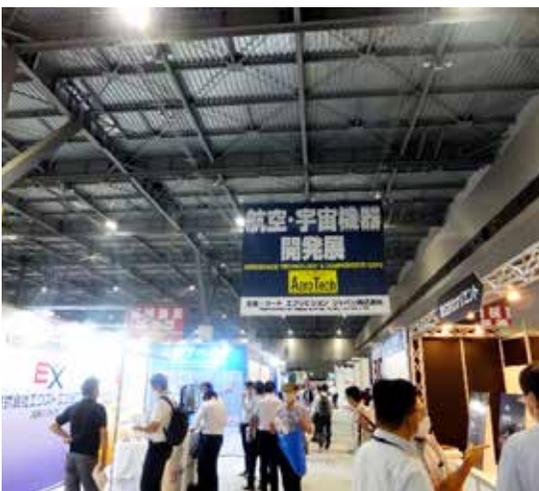
“第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展”は、展示ホールCの一部を使用し、約30社・団体（共同出展を含む）が出展、主な展示物は、航空・宇宙機器メーカー向けの下記製品、技術に関するものが中心となっていた。

- ・加工技術、表面処理
- ・試験装置、シミュレータ
- ・高機能材料、先端複合材
- ・溶接、レーザー技術
- ・CAD、CAM
- ・工場設備、備品
- ・制御機器
- ・電子部品、電源

- ・加工機、工具
- ・機構部品
- ・駆動部品、モータ
- ・通信技術
- ・計測機器、センサ
- ・ねじ、ボルト

過去の展示会では、展示会開催に先立ち、地方自治体関係者、愛知県選出の国会議員、中部地域のユーザー企業幹部及び主催者による、“名古屋ものづくりワールド”としての開会式（来賓紹介/挨拶・テープカット）が盛大に行われていたが、今回は、新型コロナウイルス感染防止の為か開会式（来賓紹介/挨拶・テープカット）などの、人が密になるセレモニーは行われず、静かな開会となった。

今回の“名古屋ものづくりワールド2020”の、来場者数、出展社数などは、以下のとおり。



“第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展” 出展各社

## 来場者等の概要

項目	区分	9月9日 (水)	9月10日 (木)	9月11日 (金)	3日間合計	備考
来場者	来場者	2,765人	2,678人	3,165人	8,608人	注1
	VIP来場者	830人	644人	622人	2,096人	注1
	来賓	11人	5人	0人	16人	注1
	合計	3,606人	3,327人	3,787人	10,720人	注1
セミナー受講者		1,408人	819人	717人	2,944人	注1
報道関係者		19人	8人	12人	39人	注1

注1：名古屋ものづくりワールドHP“来場者数 速報”（主催者発表）より

## 出展社数

項目	内訳	数値	備考
出展社	名古屋ものづくりワールド2020全体	約450社・団体	注2
	上記の内、航空・宇宙機器 開発展	約 30社・団体	注2

注2：会場案内図（出展社一覧）から出展社数を積算

## 3. 基調・特別講演、専門セミナー

各展示ホール内のセミナー会場において“基調講演・特別講演・専門セミナー”が行われ、航空機に関しては、会期初日（9月9日）の特別講演で、“航空機業界 最前線～航空機産業のこれから～”と題して、以下の講演が行われた。

## ①ボーイングの新たな挑戦

～航空機産業の発展に向けて～

ボーイングジャパン(株)

政府関係/渉外担当ディレクター

小林 美和 氏

## ②SUBARUの航空機事業の取組みと今後の展望

(株)SUBARU

執行役員 航空宇宙カンパニー ヴァイス  
プレジデント

技術開発センター長

若井 洋 氏

特別講演の会場は、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、それぞれの椅子の間隔を開け、約600名が入る会場となっており、講演会場としては最も大きな所が使用され、航空機産業に対する関心の高さが感じられた。

また、会期2日目、3日目に宇宙関係の専門セミナー、特別講演として、JAXA、三菱重工業(株)の関係者からの講演が行われた。



基調講演・特別講演・セミナー一覧

#### 4. 所見

##### (1) 展示会について

今回の“第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展”は、名古屋ものづくりワールドという、自動車、電子機器、航空機などを製造しているメーカーに焦点を当てた展示会の一部として、航空機部品などの製造に必要となる具体的な工作機械・工具、製造技術や設計・製造に関するソリューション、計測機器、工場設備などに焦点を当てた展示会となっていた。

本展示会は、JAのように国内外の航空宇宙に関する完成機・機器メーカーの出展や全国の航空クラスターの出展などに焦点を当てた展示会とは異なり、名古屋で部品・機器などを製造しているメーカーを主な対象とした、工作機械、工具、設計・製造ソリューションの展示会となっていたように感じた。

今回は、新型コロナウイルスの影響もあり、以下の特徴が展示会場において見られた。

- ・“第4回 名古屋 航空・宇宙機器 開発展”の出展社は日本企業がほとんどであった。
- また、同時開催の他の展示会においても、海外企業による遠隔出展というWeb出展をしていたところが少しあったが、全体的に海外企業の出展は少なかった。
- ・展示ブースのみの無人の出展社もいくつか見られた。
- ・出展担当者の人数を減らすため、展示物を減らし担当者が1～3名のみにて来場者の対応をしているブース、また、展示物の詳細な説明を出展担当者ではなくWebを使用し遠隔にて実施している出展社も見られた。
- ・各展示ブースに顧客との面談用の透明シールドの設置、また、出展担当者のフェースシールドの着用などが見られた。

- ・来場者数などは、入場制限のためか過去の同様の展示会に比べ、かなり少ないものとなっていた。

	2020年 (速報値)	2018年 実績	備考
来場者数	10,720人 (注1)	35,361人 (注3)	3日間合計
出展社数	約450社 (注2)	1,042社 (注3)	

注3：JETRO 世界の見本市・展示会情報 (J-Messe)  
“名古屋ものづくりワールド2020”より

##### (2) 展示会場（愛知県国際展示場 “Aichi Sky Expo”）について

今回展示会が開催された、愛知県国際展示場は、昨年8月末にオープンした新しい展示場であり、空港島内の中部国際空港（セントレア）に隣接した展示場であり、オープンしてから1年と新しいため、明るい、清潔感のある展示場となっていた。

展示ホールは、展示ホールA～Fの6つの展示ホール（各10,000㎡、合計60,000㎡）から構成され、この内、展示ホールB～Fは接続が可能な、国内では規模の大きな展示場となっている。

愛知県国際展示場へのアクセスは、名古屋鉄道・新名古屋駅から名鉄中部国際空港駅までミュースカイ（全席指定の特別特急）で28分、特急で35分、中部国際空港駅から徒歩5分（Aichi Sky Expoカタログより）と、名古屋からの距離のわりにはアクセスの良い展示場であった。

また、展示場は空港島内に中部国際空港に隣接して建てられているが、展示場と空港の間には、第2ターミナルなどの空港施設があり、また、展示場は空港のフライトライン・誘導路などに接続していない配置となっていた。

### (3) 新型コロナウイルス対策について

今回の展示会は、コロナ禍の中、開催された展示会であり、3密を避けるため展示場各所に多くのコロナ対策がなされていた。

主なものを以下に示す。

- ・展示会場への入場にあたり、マスク着用、手指の消毒、検温の徹底、また、これらがなされていない来場者・出展者の入場を規制。
- ・マスクなどを忘れた人の為の、マスク配布コーナーの設置。



マスク配布コーナー

- ・来場登録カウンターにおける、透明シールドの設置。
- ・会場内の休憩コーナーなど、各所への手指消毒のためのアルコール設置、また、着席間隔の確保を促す表示。
- ・医師・看護師などの医療スタッフの待機。
- ・会場内の通路幅が通常の展示会における通路幅より広めに設定されていた。(例えば、5m⇒6~7m、3m⇒4~5mなど)(コロナ対策と思われる。)
- ・セミナー会場入場まえの検温、セミナー登録確認のQRコード確認による無人化。
- ・セミナー会場の着席間隔を空けた、余裕のある椅子の配置(通常2脚⇒1脚)、また、



広めに取られた通路幅

演壇からの距離の確保。

- ・セミナーにおける講演者の飛沫防止用のシールドを演壇に設置。
- ・展示場から名古屋駅へのシャトルバス乗車時の、搭乗者の座席番号・氏名・連絡先の登録。
- ・開会式・テープカットなどの人の集まるセレモニーの中止。

など、数多くの主催者による新型コロナウイルス感染防止対策がなされており、また、出展者も対策を取っての出展となっており、これからの展示会開催の参考となった。

今回の展示会は、コロナ禍の中、イベントとしての展示会の開催が再開されたばかりの時期の展示会であり、新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策の実施、来場者・出展者など過去の展示会に比べ減少、など多くの変化があるが展示会がコロナ禍においても開催できたということは、感染防止と経済活動の両立という観点から大きな意味があると考えます。

国際航空宇宙展(JA)の開催に向けて、これからも暫くの間、コロナ禍における展示会の開催に関して、注視していく予定である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 部長 長井 利幸〕